


都市に棲む City Living

BankART1929's Activities 2015年11月6日[金]～12月3日[木] 光州市立美術館 企画展示室 2F

観覧時間: 10:00～18:00(但し、毎月最後の水曜日は20:00まで) 休館日: 月曜日

参加作家: 松本秋則、高橋啓祐、開発好明、小泉アトリエ、みかんぐみ、他

日常の構築 Everyday Construction / 未完成・仮設 Work-in-Progress / 市民との協働 Together with City Residents / 現代の寺子屋 The Modern-day Temple School / 都市への挿入 Insertion into City Life / 創造界隈の形成 Creative Neighborhoods / 社会とアート Society and Art / パフォーマンスの新たな展開 New Trends in Performance Arts / 若いアーティストへの支援 Support for Young Artists / コーディネート事業の新しい展開 Fresh Directions for Project Co-ordinators / 映像文化都市 Visual Culture City / 国内外とのネットワークの構築 Creating Networks at Home and Overseas / BankART Life

主催: BankART1929 共催: 横浜市文化観光局 特別協力: 光州市立美術館  광주시립미술관
Gwangju Museum of Art



都市に棲む City Living BankART1929's Activities

2015年11月6日[金]～12月3日[木] 光州市立美術館 企画展示室2F

観覧時間：10:00～18:00(毎月最後の水曜日は20:00まで) 休館日：月曜日

参加作家：松本秋則、高橋啓祐、開発好明、小泉アトリエ、みかんぐみ、他

BankART1929は2004年、横浜市が推進する「創造都市構想」の先鋒プログラムとしてスタートしました。都市の中に「アート＝クリエイティビティ」を挿入することで、街の再生の起点にしていこうとするものです。当初は元銀行(bank)だった建物を活用していましたが、現在は河岸(bank)にある元港湾倉庫がメイン施設です。諸事情で、数回にわたり移転、改装を繰り返してきましたが、こうした**仮設性**が、BankART1929のフットワークを育み、しなやかな活動を特徴づける起因にもなりました。またこのエリアのもつ最も魅力的な**水の都市(映像的な)**のイメージは、BankARTの活動をプラクティカルであると同時に、メタフォリカル(イメージ)な世界へと導いてくれました。

活動は美術、建築、パフォーマンスを中心に、その他様々なジャンルに広がります。その中でもとりわけ力を注いでいるのが、**日常の仕事**です。夜23時までオープンしているカフェやパブ、年間を通じてのアーティストインレジデンス、芸術書籍を扱うブックショップ、月～金の夜の**寺子屋のようなスクール**、多数のコンテンツ制作(書籍、DVD他)等、その全ての事業を連動させながら、経営的に活発に運営してきました。

館内における主催事業は、元倉庫だった天井の高い荒々しい空間(約3,000㎡)を生かしながら、個展を中心に大型の展覧会を行なっています。「かたちの発語展」のように、ものをつくるという始源的な行為にフォーカスしたものから、**ダンスパフォーマンスの新しい展開**を探るもの、**社会とアート**との関係を巡るもの等、常に時代を表象する企画を行なってきました。**若いクリエイターを支援するプログラム**も多数あり、35歳以下の作家を紹介する「under35」のシリーズ、同様にパフォーマンス系の「Cafe Live」シリーズ、全館を2～3ヶ月間、数十チームの制作スタジオとして活用する「BankART AIR」等があげられます。

また外部からオファーされる数多くのイベントも受け入れてきています。それが福祉や環境をテーマした他領域のものであっても、積極的にBankARTがかかわることで、**アートコーディネート事業**として位置づけ、共に歩む関係を築くように心がけています。これまでの事業数は約3,500に上ります。

地域との協働は、周辺のレストランと協働する「食と現代美術」や戦前の進取の気性や風俗を街に眠るアルバムから引き出す「横濱モボ・モガを探せ!」、あるいは**都市の中に作品を挿入**し、忘れられている場所を開いていく「ランドマークプロジェクト」等、様々な方法を展開してきました。また古い空きビルを開き、シェアオフィスやアトリエにコーディネートする**クリエイター誘致(創造界隈の形成)**も積極的に行なってきました。横浜市の補助金制度やクリエイターの自発的な動きもあいまって、現在は1,000人を越えるクリエイターがこの地域に仕事場を構えるようになりました。

国内外の他都市とのネットワーク構築も、国際会議や出版等を行ないながら積極的に取り組んできました。とりわけ「続・朝鮮通信使」の活動は、江戸時代の日本と朝鮮半島の交流プロジェクト「朝鮮通信使」を参照にする、旅する街を創成する日韓の新しい文化交流のプログラムです。ツアー、シンポジウム、レジデンスプログラム、展覧会等、徐々に規模と濃度をあげながら展開しています。10年間、交換レジデンスプログラムを続けている台北市、その他、アジアの国々やEU諸国とも様々な交流事業を行なっています。その中継拠点として、2015年秋には「BankARTベルリン」を設置しました。

こうした日常の営みとアクションを総括した「**BankART Life**」という大規模なイベントを横浜トリエンナーレと連動しながら、これまで4回開催してきました。特に、2014年の「BankART Life IV」は、光州市と横浜市が協働して行った「東アジア文化都市」事業のひとつとして実施されました。

「Life」という言葉には、BankART1929が、通常の文化施設を越えて、都市の財産を活かしながら、より広く深く、地域と世界と繋がり、ひとつの運動体・生命体であり続けたいという願いが込められています。

この展覧会はこれまでの活動のエッセンスです。横浜に誕生したBankART1929がどのように都市に棲み続けてきたかを感じ取っていただければ幸いです。



BankART Studio NYK (Tadashi Kawamara "Expand BankART" 2012)



BankART Studio NYK 3F



「生まれ！椅子&ソファ@光州」

展覧会に展示(使用)する椅子&ソファをあつめています！募集期間 10月28日[水]～11月6日[金]
連絡先 mail: info@bankart1929.com

シンポジウム「なぜ横浜に創造都市は生まれたのか？」

11月29日[日] 15:00-

パネラー：曾我部昌史(みかんぐみ)、小泉雅生(小泉アトリエ)、池田 修(BankART1929代表)、他

お問合せ：光州市立美術館(61104 光州広域市北区河西路52)
TEL: 062-613-7100 FAX: 062-613-7149

交通アクセス

[バス] 光州ビエンナーレ館下車：ヨンボン83, サンム64
旧全南道教育庁下車：ムンファン48, ソンジョン29, サンム63
[車] ビエンナーレ駐車場利用
旧西光州IC入口から中外公園に右回り
旧全南道教育庁から光州市立民俗博物館に右回り

